



春秋戦国時代の名臣 (西門豹(シーメンバオ)①)

12月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年12月1日(木)

中国の戦国時代(BC403～BC221)は、それまでの血縁関係による諸侯の封建時代から、中央集権を推進する優秀な官僚の登場によって幕をあける。

彼等は、魏の西門豹、李克、呉起であり、秦の商鞅であり、魏と秦は彼等の働きにより、中央集権化に成功して戦国の強国となった。

魏の文侯(BC424～BC387 在位)は、戦国初期きっての開明君主であり、西門豹、李克、呉起などの「賢才の登用」により強国魏の地位を固めた。

その文侯が、西門豹を鄴の県令に登用した。西門豹が赴任した鄴の河内地は、魏の東部に位置し、趙、斉、衛の諸国と境を接する要衝の地である。だがこの地方の民衆は、たび重なる黄河の洪水と、在地勢力の搾取とにより、すっかり疲弊していた。

その理由は、「河の神に、毎年、娘を差し出さねばなりません。鄴の三老や下役人、豪族たちは、河の神に嫁を取らせるために、毎年、数百万の税を取り立てますが、そのうち実際に使うのはわずか二、三十万で、残りは三老と下役人と巫女で山分けにします。そのために、人民の暮らしも貧しいのです。」

毎年、巫女が美しい娘を捜し、「この娘を河神の嫁にする」と言って、娘を飾りたて、花嫁用の輿に乗せ、そのまま河に流すのです。

こんなわけで、娘を持つ家は、よその土地に逃げてしまい、町もすっかりさびれ、残った者たちの生活は苦しくなるばかりです。」

やがて娘を河の神に送る日が来て、西門豹は河のほとりに出かけた。

周囲は二、三千人の見物人が集まって、70歳になろうとする巫女は絹をまとった女弟子十人ほどを従えている。

西門豹は「河の神の嫁」になる娘を一目見て、「これが美人なものか。巫女、めんどろでも河の神に伝えに行ってくれ、もっといい娘を捜して後日送りますから、お待ち下さい」と。

下役人に命じて、有無をいわさず巫女を河のなかへ投げ込ませた。また、しばらくたった。「遅いな。どうしたのだろう。」と言って女弟子をひとり、もうひとりと投げ込んで、「女ではだめなようだ。ひとつ三老にご足労ねがおう」と三老を河にほうりこませた。そのまま、じっと立ちつくしている。「どうしたのだろうか」とかたわらの下役人や豪族たちは恐れて、地べたに顔をこすりつけて、額からは血が流れ、顔面は蒼白である。

「河の神は客を引きとめて帰さぬようだ。もう皆んな帰ってよい」と言った。もう、だれひとりとして河の神に嫁をとらそうなどと言わなくなった。

西門豹は、迷信を一掃した勢をかって、ただちに人々を徴発し、十二の用水を掘り、黄河の水を引きいれて農地を灌漑した。

参考：(司馬遷史記、魏世家、滑稽列伝、徳間書店)